

第104回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年3月13日（月） 10：30－11：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、鈴木委員、松尾委員

(2) オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官、山川 JAXA 理事長

(3) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課：小川課長

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：千原局長、上田課長

経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室：伊奈室長

4. 議事要旨

文部科学省より資料1に基づき、H3 ロケット試験機1号機の打ち上げ失敗について説明を行った。また、事務局より資料2及び資料3に基づき、次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点及び宇宙安全保障構想の方向性について説明を行った。委員からは以下のような意見があった。

- H3 ロケットの失敗については残念であるが、文科省と JAXA で原因究明を行った上で、今後も努力を積み重ねて、次の打上げに繋げて欲しい。
- H3 ロケットの打上げ失敗による、衛星の打上げスケジュールへの影響や、ALOS-3 が失われたことによる影響についても検討が必要。
- 人材基盤の観点においては、大学の研究者や学生などが中心的な役割を果たすのではないか。
- 基本計画の策定にあたっては、将来の子供たちに夢と希望を与えられるような記載ができるとうい。
- 宇宙空間は世界の各国が活躍する領域であるため、国際協力を進めていくことが重要。そのためには、対等な立場となるよう、我が国として技術力を有することが必要。
- JAXA の研究開発能力は我が国にとって唯一無二の存在。JAXA の研究開発環境をどのようにすると良い研究成果が得られるようになるか、議論をしていくことが必要。

以上